8/3(土)、まいど！倫理号です。松江市は今日、明日は郷土の花火大会です。今日も早朝より家族の席に場所取りしました。「すべてがわが応援団」分りました。幸せ幸せ

今週の倫理 1145号 2019.8.3 ▷ 8.9

八田度の一句です「幸せは大幸小幸 冷幸せも」

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一―一九九九）のことばを掲載します。

8月のテーマ　困ったことから開ける道

すべてがわが応援団

丸山竹秋

すべてがわが応援団などというと、「そんなことはない。あれは自分の敵で、この前も皆の前で悪口雑言、よほど張り倒してやろうかと思ったくらいだ」とか、「痔がいたむ、持病なのだ。永年憎んできた。追放するのがあたりまえだ。味方なものか」などと反論されるかもしれない。

ものは考えようだともいう。しかしたんに考えようというだけのものでなく、悩みに悩み、苦しみに苦しんだあげくの果てに、これだ！と五臓六腑にしみわたるほどの喜びをもって、悟られた真理なのである。

持病とは、これ以上行きすぎがないように、また危険にさらされることのないように気をつけよ、と注意してくれる応援者なのである。痔にかぎらず、神経痛でも、内臓の故障でも何でもそうなのだ。病気は一般に個人あるいは社会のゆがみやひずみの象徴なのである。しかも持病は永年その人のもっている生活の不自然なところを、その人にふさわしく現わしている。

だから病気をきらい、あせって直そうとふんばり、よけいぐあいを悪くするよりも、よりよい立ち直りのためにも、病気によって教えられるところを、よき忠告として受けいれ「ありがとう、しっかりやるよ」とはりきって暮らすのが賢い生き方である。

悪口をいわれ、罵られたりすると、腹もたち不愉快にもなるだろう。しかし落ちついて考えてみよう。その悪口がぴったり当たっているのなら、それこそ反省し、改めていけばよいではないか。

激励してくれているのが悪口であり、非難攻撃なのである。その非難が当たっていなければ、「それはちがう。しかしそう見えるところもあるかもしれない。今後はそうしないようにいっそう気をつけるから、応援のほうはよろしく頼む」とでもこたえて、勇んで仕事に取り組むことだ。

人生にいやな人、困った問題などなければよいと思いがちだが、しかしよく考えてみると、そうした人があり、問題があればこそ、もっとしっかりやろうと決意もする。

そしてさまざまの工夫も凝らし、知恵もしぼるからこそ、生活に張りが出、人生もおもしろくなってくるのではないか。試合で強敵もいず、いつでも楽々と勝てるようなゲームばかりでは、さっぱりおもしろくあるまい。人生でも同様だ。試合にもルールがあるように、人生にも大小さまざまのルールがあるのである。民族によって憲法とか法律とかは異なるのであるが、しかし全人類に共通している徳福一致の倫理こそは、不変絶対のルールにほかならない。

これにのっとってしっかりやっていくとき、自分を困らせるように見えることごとくは、じつはこよなき味方であり応援団なのであって「フレーフレー、負けるなよ」とけんめいに激励してくれているものなのである。

（『つねに活路あり』より）

一般社団法人 倫理研究所 法人局

え・城谷俊也